

# デジタル学習基盤に必要なシステム構成・機能の 検討に向けて

文部科学省総合教育政策局教育DX推進室

# これまでの審議の状況の整理

- ①教育データ利活用に関する期待や課題
- ②ユースケースの整理、意義などの周知



他の委員会等で検討されることなども踏まえ、これまでの本会議においては、下記についてヒアリング及び検討

- ✓ 教育データ利活用の現状やニーズ
- ✓ 教育データ利活用ケース例、意義や効果
- ✓ 教育データ利活用に向けた課題・支援

以下の点は本会議における主たる論点ではないが、他の委員会等での検討内容については踏まえることが必要。

- ◆ デジタル学習基盤の整備を踏まえた学びの在り方
- ◆ デジタル学習基盤に係る現状と課題の整理

- ③-1 必要なシステム構成や機能
- ③-2 ニーズに合わせた選択  
(選択を可能とするための条件整備)



前回の本会議において主にヒアリング等を行い、別紙で示す論点の整理（案）について、今回引き続き検討

(論点例)

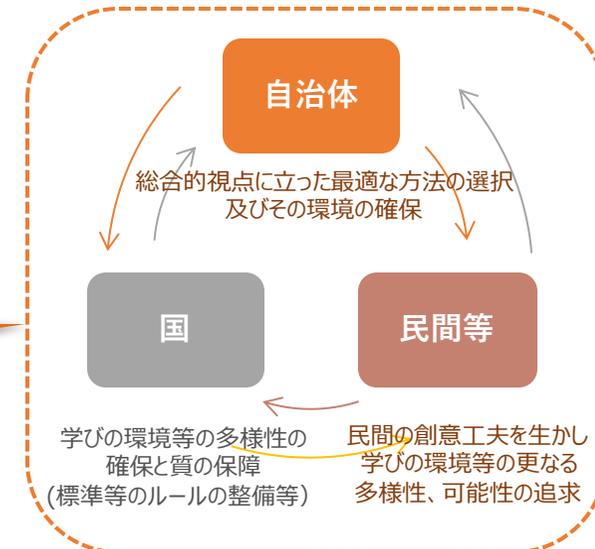
- ✓ 学習eポータルも含め、どの学習リソースをどのように組み合わせるかは、各自治体のニーズに応じて選択できることが望ましいのではないか。

- ④関係者の役割分担  
(国、地方自治体、民間企業等)



前回の本会議において主にヒアリング等を行い、別紙で示す論点の整理（案）について、今回引き続き検討

✓ 役割分担のイメージ（下図）



目指す方向性

教育データの効果的な利活用を促進

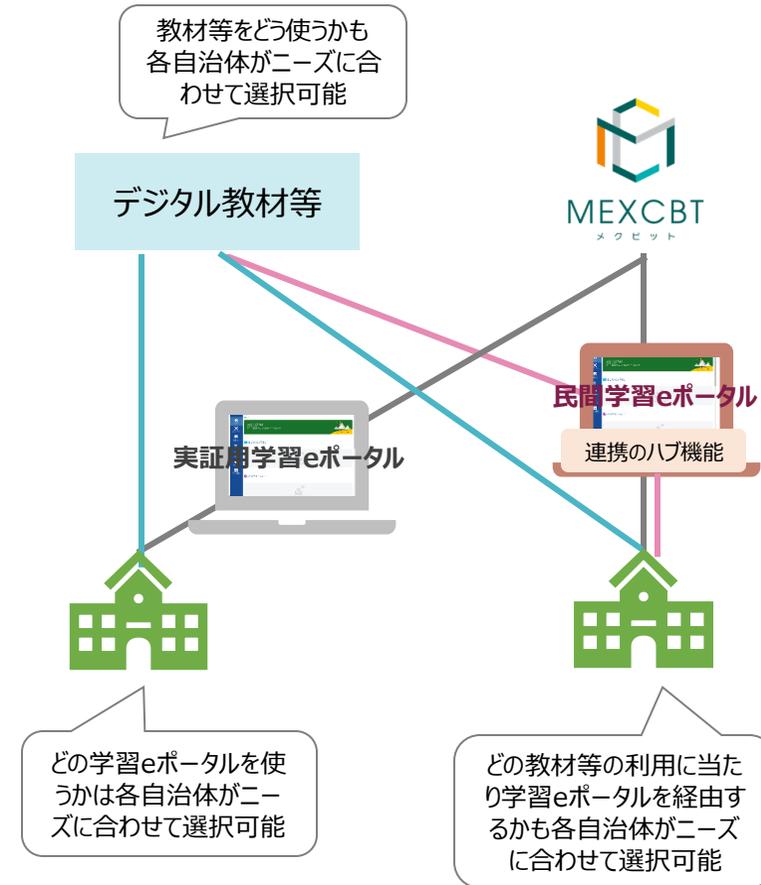


児童生徒 1 人 1 台端末環境において、  
誰一人取り残すことなく、  
全ての子供たちの力を最大限に引き出す

# システム構成や機能についての現状等

- ✓ 基本的に、自治体において、どの学習リソースを活用するかについては各自治体がニーズに合わせて選択可能。
- ✓ 一方で、全国学力・学習状況調査に参加する自治体は、同調査で活用する予定のMEXCBT、MEXCBTへのアクセス機能を持つ学習eポータルを導入することが必要となる。
- ✓ 学習eポータルには、「民間学習eポータル」（MEXCBTへのアクセス機能に加え、民間事業者の創意工夫に基づく独自の機能を実装）のほか、「実証用学習eポータル」（MEXCBTへのアクセス機能のみ）がある。
- ✓ 民間学習eポータルを利用するか、MEXCBT以外の教材等を活用する場合に学習eポータルを経由するか否かについては、各自治体がニーズに合わせて選択可能。

(MEXCBTの利用のためには「民間学習eポータル」又は「実証用学習eポータル」の選択が可能であること等について、各自治体においてニーズに合わせて様々な選択ができるよう、全国学力・学力状況調査の自治体向け説明会等の機会を捉えて重ねて周知中)



# これまで示している標準やガイドライン等

## （自治体のニーズに合わせた「選択」）

- ✓ どの学習eポータルを使うか、どの学習リソースを活用するか、教材等を活用する場合に学習eポータルを経由するか否か、先述の機能を整備したい場合に民間学習eポータルを活用してその機能を実現するか否かも含めて、各自治体がニーズに合わせて「選択」できるものである。

## （標準ルールの策定）

- ✓ 様々な学習リソースについて、各自治体が状況やニーズに合わせて、その組み合わせも含めて実質的に「選択」し、どのような学習リソースで取得したデータであっても自由に組み合わせ活用できるようにするため、
  - データ項目の内容の規格及び技術的な規格を揃えとともに、  
※「文部科学省教育データ標準4.0」（2024年3月） 令和6年度も更新予定
  - 様々な学習リソースが技術的にどう連携するかを定めた技術指針、各自治体の選択自由の確保やデータの取扱いなどを定めた運用指針を策定・更新などしている。  
※「学習eポータル標準モデルVer4.00」（2024年3月） 広く教育データの相互運用性を確保するため、「相互運用標準モデル」に名称変更の上、令和6年度も更新予定

## （安全・安心な教育データ利活用）

- ✓ 様々な学習リソースを活用しながらデータ利活用を行うことは様々なメリットがある一方で、安全・安心な活用のためには、個人情報情報の適正な取扱いを行うこと、十分な情報セキュリティ対策を講じることが不可欠。
  - 教育委員会や学校が児童生徒の教育データを取り扱う際に留意すべきポイントをまとめるとともに、  
※「教育データの利活用に係る留意事項（第2版）」（2024年3月） 令和6年度も改訂予定
  - 教育委員会等が教育情報セキュリティポリシーの策定や見直しを行う際の参考として、ガイドラインを策定・改訂。  
※「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」（2024年1月） 令和6年度も改訂予定

### ③-1. 必要なシステム構成や機能関係

#### 【MEXCBTへの接続】

- MEXCBTを利用できる環境は、実証用学習eポータル及び民間学習eポータルにより整備されている。

#### 【教育データ利活用を進めるための仕組みや機能】

- a) 今後、全ての子供たちの力を最大限引き出すための教育データ利活用を効果的に進める上で、全ての自治体（学校）における整備を目指すべき仕組みや機能は何か。  
（例：データ連携のハブ的な機能、データ分析を可能・容易にする仕組み、教育データを可視化する仕組み等）

#### 【具体的な内容や実現手法の自治体による選択】

- b) 上記の仕組みや機能の整備に当たり、どのデータを重視するかや、それを踏まえ、校務支援システム等の既存の仕組みとの関係を含め、何をどう活用するのかなど、具体的な内容や実現の手法については、各自治体がニーズに合わせて選択できるものとする方向性でよいか。

### ③-2. ニーズに合わせた選択（選択を可能とするための条件整備）関係

- 教育データを効果的に活用できるよう、各データ項目の内容の規格及び技術的な規格は、「教育データ標準」を策定（更新）している。

- a) 複数の学習リソース及び教育データの連携に関しては、民間学習eポータルの利用に限らず、自治体が独自システムを構築する場合など様々な場合が想定されるが、今後も教育データの利活用の多様な展開を可能とするとの観点から、いずれの場合にも、既に一定程度普及している技術的標準等によることを基本として、その標準等の更新を進めていくことでよいか。
- b) 自治体の選択肢が狭められないようにするために、ハブ的機能を有するサービス等の利用に関して、どのような標準やルールが必要か。  
（例：標準等の取り決めに従った他の学習リソースとの接続の拒否の禁止、ハブ的機能を有するサービス等の提供事業者の新規参入・撤退等を受けて事業者を乗り換える際の円滑なデータ移行の保障、適正な費用負担の在り方等）

### ④. 関係者の役割分担関係

- a) 国は、全国的学習リソース（MEXCBTと実証用学習eポータル）の運用・改善、上記のような基本的な方針や標準の策定（更新）等のほか、自治体の選択に資するモデルの提示、実証事業の実施・成果の展開等による実装に向けた支援等を引き続き実施することでよいか。
- b) 各自治体は、上記のような基本的な方針等に沿いながら、全ての子供たちの力を最大限引き出すために、実際の児童生徒のニーズや受益者負担の観点等を踏まえつつ、より効果的な教育データの利活用の仕組みを検討・選択して、その整備を進めることでよいか。
- c) 民間企業等には、多様かつ適切な選択が可能となるよう、創意工夫に基づく様々な学習リソースやサービスの開発・提供と併せて、各学習リソース等のユーザー視点での相違や、教育データの利活用の仕方等に関し、分かりやすい発信に向けた相互連携・協働を要請してはどうか。